大学･高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和7年度	学校コード	F113310103064	設置等組織名	理工学部（デジタルグリーンテクノロジー学科）
大学名	上智大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	東京	事業計画名	上智大学理工学部デジタルグリーンテクノロジー学科設置計画

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和7年度	1-① 令和7年7月～ 新学科準備室の運営 1-② 令和7年7月～ 新学科準備に係る事務補助者の配置 1-③ 令和7年7月～ 国内IB高校に対して新学科概要について広報の実施 1-④ 令和7年10月～国外高校に対して新学科概要について広報の実施 1-⑤ 令和7年8月～ 本学の近隣高校に対して新学科概要について広報の実施 1-⑥ 令和7年9月～ 地方自治体及び企業等との設置計画に関する事前協議 1-⑦ 令和7年9月～ 国内外の高校に対して学生確保のためのアンケート調査の実施 1-⑧ 令和7年7月～ 認可申請書及び届出書のデータ等作成の実施 1-⑨ 令和7年7月～ 新学科紹介広報の実施 1-⑩ 令和7年7月～ 教員選考 1-⑪ 令和7年7月～ 収容定員変更に係る学則変更、学科設置設置届出書等の提出準備	1-① 令和7年7月～ 新学科準備室の運営 1-② 令和7年7月～ 新学科準備に係る事務補助者の配置 1-③ 令和7年7月～ 国内IB高校に対して新学科概要について広報の実施 1-④ 令和7年11月～国外高校に対して新学科概要について広報の実施 1-⑤ 令和7年7月～ 本学の近隣高校に対して新学科概要について広報の実施 1-⑥ 令和8年2月～ 地方自治体及び企業等との設置計画に関する事前協議 1-⑦ 令和7年10月～ 国内外の高校に対して学生確保のためのアンケート調査の実施 1-⑧ 令和7年7月～ 認可申請書及び届出書のデータ等作成の実施 1-⑨ 令和7年7月～ 新学科紹介広報の実施 1-⑩ 令和7年7月～ 教員選考 1-⑪ 令和7年7月～ 収容定員変更に係る学則変更、学科設置設置届出書等の提出準備	令和7年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	1後-① 令和7年7月から継続 新学科準備室の運営 1後-② 令和7年7月から継続 新学科準備に係る事務補助者の配置 1後-③ 令和7年7月から継続 国内IB高校に対して新学科概要について広報の実施 1後-④ 令和7年10月から継続 国外高校に対して新学科概要について広報の実施 1後-⑤ 令和7年8月から継続 本学の近隣高校に対して新学科概要について広報の実施 1後-⑥ 令和7年9月から継続 地方自治体及び企業等との設置計画に関する事前協議 1後-⑨ 令和7年7月から継続 新学科紹介広報の実施 1後-⑫ 令和8年4月～ プレゼンテーション＆ディスカッション室備品の設置 1後-⑬ 令和8年4月～ ディスカッション室備品の設置 2-① 令和8年4月～ 新学科専用のディスカッション＆プレゼンテーション室のための研究室改修 2-② 令和8年4月～ 新学科専用のディスカッション室のための研究室改修 2-③ 令和8年4月～ 新学科教員のための研究室改修	1後-① 令和7年7月から継続 新学科準備室の運営 1後-② 令和7年7月から継続 新学科準備に係る事務補助者の配置 1後-③ 令和7年7月から継続 国内IB高校に対して新学科概要について広報の実施 1後-④ 令和7年11月から継続 国外高校に対して新学科概要について広報の実施 1後-⑤ 令和7年7月から継続 本学の近隣高校に対して新学科概要について広報の実施 1後-⑥ 令和8年2月から継続 地方自治体及び企業等との設置計画に関する事前協議 1後-⑨ 令和7年7月から継続 新学科紹介広報の実施 1後-⑫ 令和8年4月～ プレゼンテーション＆ディスカッション室備品の設置 1後-⑬ 令和8年4月～ ディスカッション室備品の設置 2-① 令和8年4月～ 新学科専用のディスカッション＆プレゼンテーション室のための研究室改修 2-② 令和8年4月～ 新学科専用のディスカッション室のための研究室改修 2-③ 令和8年4月～ 新学科教員のための研究室改修	令和8年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度	2後-④ 令和9年4月～ 新学科事務室のための研究室改修 2後-⑤ 令和9年4月～ 新学科多目的室のための研究室改修 2後-⑥ 令和9年4月～ 新学科教員のための研究室改修 3-① 令和9年4月～ 新学科多目的室備品の設置 3-② 令和9年4月～ 新学科事務室の運営 3-③ 令和9年4月～ 新学科事務室、多目的室、プレゼンテーション＆ディスカッション室及びディスカッション室什器の設置 3-④ 令和9年4月～ 新学科に係る事務補助者の配置 3-⑤ 令和9年4月～ 国内IB高校に対して新学科概要について広報の実施 3-⑥ 令和9年4月～ 国外高校に対して新学科概要について広報の実施 3-⑦ 令和9年4月～ 本学の近隣高校に対して新学科概要について広報の実施 3-⑧ 令和9年4月～ インターンシップ科目受入団体への交渉 3-⑨ 令和9年4月～ 新学科紹介広報の実施	2後-④ 令和9年4月～ 新学科事務室のための研究室改修 2後-⑤ 令和9年4月～ 新学科多目的室のための研究室改修 2後-⑥ 令和9年4月～ 新学科教員のための研究室改修 3-① 令和9年4月～ 新学科多目的室備品の設置 3-② 令和9年4月～ 新学科事務室の運営 3-③ 令和9年4月～ 新学科事務室、多目的室、プレゼンテーション＆ディスカッション室及びディスカッション室什器の設置 3-④ 令和9年4月～ 新学科に係る事務補助者の配置 3-⑤ 令和9年4月～ 国内IB高校に対して新学科概要について広報の実施 3-⑥ 令和9年4月～ 国外高校に対して新学科概要について広報の実施 3-⑦ 令和9年4月～ 本学の近隣高校に対して新学科概要について広報の実施 3-⑧ 令和9年4月～ インターンシップ科目受入団体への交渉 3-⑨ 令和9年4月～ 新学科紹介広報の実施	令和9年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
令和12年度	2後-⑦ 令和12年4月～ 新学科用プレゼンテーション室のための研究室改修 3-⑩ 令和12年4月～ プレゼンテーション室備品の設置	2後-⑦ 令和12年4月～ 新学科用プレゼンテーション室のための研究室改修 3-⑩ 令和12年4月～ プレゼンテーション室備品の設置	令和12年度自己評価	リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
令和15年度			令和15年度自己評価	リストから選択してください。
令和16年度			令和16年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和8年3月 収容定員の総数の増加 認可申請予定 令和8年4月 理工学部デジタルグリーンテクノロジー学科設置届出予定	令和8年3月 収容定員の総数の増加 認可申請 令和8年4月 理工学部デジタルグリーンテクノロジー学科設置届出		
定員減又は 学部等の廃止	令和9年3月 理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科定員減に係る届出予定	令和9年3月 理工学部物質生命理工学科入学定員10人、機能創造理工学科入学定員10人、情報理工学科入学定員10人減員に係る届出予定（理工学部物質生命理工学科入学定員137名、機能創造理工学科入学定員137名、情報理工学科入学定員136名、理学関係･工学関係）		

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	上智大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学

ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

ⅲ）「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学

ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。□

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	上智大学

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
□ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
□ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.本学では、大学で学んだ専門知識や技能をグローバル社会の中でどのように活かすのか、あるいは自分が残りの大学生活で何を学ぶべきか、といった気づきを就業・実務経験を通じて得るために、インターンシップ科目を開講してきた。例えば、本学と協定を結んだ実習先（グローバル企業、国際機関の日本代表部、国際協力団体、報道機関など）でインターンシップ（就業体験）に参加する科目では、インターンシップ参加に加えて事前・事後の講義受講や課題提出を行うことで単位が付与されている。新学科においても上記と同様のインターンシップ科目を設ける。この中では、地方自治体等との連携によるインターンシップ科目も新たに計画している。 また、新学科では、問題解決型学習（PBL）を実施する科目を開講する。PBLは、他の授業で習得した知識を活用して学生が主体的に問題解決に取り組む課題を通じて、各自の専門性を総合的に活かす能力を身につけることを目的とする。PBLでは、様々なスキルや知識、感性を持つ学生たちが集まり、企業等から派遣された講師の指導による授業の中で互いに触発し合うことで、幅広く柔軟な考え方や新たな創造を生み出すことを狙っている。	新学科の教育内容の充実に向け、申請時の計画に基づきインターンシップ科目および問題解決型学習（PBL）の実施体制整備を進めた。 インターンシップ科目については、学生が大学で学んだ専門知識や技能を実務の中でどのように活かし得るのかを体験的に理解するとともに、今後の大学生活において重点的に学ぶべき内容についての気づきを得ることを目的としている。この目的を踏まえ、専門教育が本格化する前段階に実施する科目として位置付け、新学科に対応した実習先の開拓を行った。その結果、企業、非営利団体、自治体等における実習先を確保した。現在も引き続き、実習内容の充実および受入れ先の拡充に向けた調整を進めている。 また、問題解決型学習（PBL）については、「PROJECT-BASED PRACTICUM」を授業科目として設定した。本科目は、大学で学んだ知識や技術を社会的課題の把握および解決策の検討へと結び付けることを目的に、PBLの手法を取り入れた教育内容として設計している。あわせて、実務経験を有する講師の協力体制を整備した。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
□ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
□ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
□ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
■ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.主として一条校の生徒に対する入学者選抜では、本学理工学部の既存学科における入学者選抜において課している数学IIIを試験科目から除外する。また、新学科の教育・研究内容に関心のある幅広い入学者を集められるよう、高等学校等への入試説明会において、「数学IIIを試験科目から除外する」旨周知する。 新学科では全ての授業や研究指導を英語で行うため、国際バカロレアによる教育カリキュラムを実施している高等学校の生徒を主要な入学者と考えている。このため、IB Diploma取得者に適した試験方法を検討している。 e.外国人留学生については書類選考により入学者を選抜し、国外在住者が入学確定まで来日する必要がない「渡日前入試」の完全な実施を図る。これにより受験生の負担が軽減され、外国人留学生が志願しやすい環境が実現される。 本学が協定を締結している海外指定校、特に本学理工学部物質生命理工学科グリーンサイエンスコースと機能創造理工学科グリーンエンジニアリングコースへの入学実績のある高等学校への積極的な入試広報を実施することにより、外国人留学生受け入れを強化する。	a. 本学科の教育課程において微積分・極限等の数学Ⅲの内容が全学修領域の基礎として不可欠であることを踏まえ、数学Ⅲを必履修科目とする方向で検討を進めている。主として一条校の生徒に対する入試（推薦入学試験〔指定校制・公募制〕およびカトリック高等学校対象特別入学試験）においては、調査書により数学Ⅲの履修および成績を評価対象とすることを想定している。 本学科では全ての授業・研究指導を英語で行うため、国際バカロレア（IB）による教育カリキュラムを実施している高等学校の生徒を国内の主要な入学者として位置づけている。IB Diploma取得者については、IBカリキュラムにおける数学（Analysis and Approaches等）の履修状況をもって数学Ⅲに相当する学力として評価するとともに、英語力の証明としてTOEFL iBTまたはIELTS等のスコアを活用し、学術的素養と英語力を適切に評価できる選抜体制の整備を図る。 e. 外国人留学生については書類選考による選抜を実施し、国外在住者が入学確定まで来日する必要がない「渡日前入試」の完全な実施を図る。これにより受験生の負担が軽減され、外国人留学生が志願しやすい環境が実現される。本学海外協定校に対し、新学科パンフレットのURL等を記載したメールを送付し広報活動を開始した。設置認可後に改めて入試情報の提供・ホームページへの案内掲載等を実施する予定である。	a. 教育課程の内容を精査した結果、微積分や極限といった数学Ⅲの内容が本学科の学修領域全般の基礎として重要であるとの認識に至った。このため、入学後の学修を円滑に進める観点から、数学Ⅲを必履修科目とする方向で検討を進めている。なお、国内理工系学部への進学を希望する一条校生は高校段階で数学Ⅲを履修していることが一般的であり、この方針変更が志願者層の縮小につながる可能性は低いと考えられる。むしろ、入学時点で数学Ⅲの素養を有する学生を確保することにより、本学科の教育の質の向上につながるものと判断している。外国人留学生については日本の高校課程との相違を考慮し、SAT・ACT等の外部試験スコアおよびIBカリキュラムの履修内容を用いた代替評価を行う。 e. 本学理工学部物質生命理工学科グリーンサイエンスコースおよび機能創造理工学科グリーンエンジニアリングコースへの入学実績のある高等学校に対し積極的な入試広報を実施することにより、外国人留学生の受け入れを強化する予定であった。しかし、海外の高校から出願する場合、多くは「（国名）の現地校」等のコードが付与されており、特定の高等学校を識別することができなかった。代替策として、本学の設置母体であるイエズス会のネットワークを活用し、米国・東南アジアのカトリック系高等学校への広報活動を実施している。

大学名	上智大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	理工学部デジタルグリーンテクノロジー学科

		年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		改組状況		選定	届出																	
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

大学名	上智大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

年度				R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	410	410																	
		入学者数	人	401	380																	
		女子学生数	人	135	125																	
		社会人学生数	人	0	0																	
		留学生数	人	8	10																	
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	30																		
		女子学生数	人	12																		
		社会人学生数	人	0																		
		留学生数	人	24																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	410	410																	
		入学者数(B)	人	431	380																	
		女子学生数	人	147	125																	
		社会人学生数	人	0	0																	
		留学生数	人	32	10																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.05	0.93																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	1,610	1,640																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	1,676	1,691																	
		編入学者数	人	10	10																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.04	1.03																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	384																		
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	6	6																	
		授業科目の単位数	単位	4	4																	

大学名	上智大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	2,841	2,841																	
		入学者数	人	2,748	2,684																	
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	189																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	2,841	2,841																	
		入学者数(B)	人	2,937	2,684																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	0.94																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	11,340	11,380																	
		編入学定員	人	8	8																	
		在籍者数(D)	人	12,383	12,352																	
		編入学者数	人	120	112																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.09	1.09																	

４.外部資金の状況（全学）

改組状況		R1年度 申請－５年	R2年度 申請－4年	R3年度 申請－3年	R4年度 申請－2年	R5年度 申請－1年	R6年度 申請	R7年度 選定	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	1,244,437	1,392,301	1,384,021	992,710	1,094,966	1,079,513	1,328,740												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	1,241,141
本事業による助成金の額(F)	千円	207,370
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	1,246,325

特記事項

「２．理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況」及び「３．大学（学士課程）の状況」における「0」は、若干名を表す。